

第四次高知県子ども読書活動推進計画策定に向けた 基本的な考え方及び論点（案）

1 第四次計画の基本的な考え方

①子どもの読書活動の意義の明確化

読書活動に何を求めるのか。また、読書によって具体的にどのような教育的効果が得られるのかを明確にし、そのために県として取るべきアプローチを示す。

②子どもの読書活動における重点的な課題への対応

第三次計画の成果と課題や、子どもの読書環境を踏まえ、重点的な課題を解決するために県が取り組むべき支援施策を策定する。

③社会構造の変化に対する読書活動の在り方

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響や ICT、GIGA スクール構想下において、今後の読書活動の推進について新たな方向性を検討する。

2 第四次計画の論点

■前提の再確認

①読書の定義

「読書」とはどのような行為を指すか、人が抱くイメージには幅がある。小説や伝記を読むことは「読書」であるが、携帯小説や図鑑、俳句・和歌集、落語などのカテゴリーの違いによって「読書」に当たるかは個人の読書観による。

そして、子どもの読書活動は乳幼児期から青年期を対象とする取組であり、読書の目的や形式、本の内容にも大きな違いがあることから、県として求める読書の姿を明確にする。

②読書の目的と効果

感情の形成、言語力、表現力、読解力、他者への理解など、読書によって様々な能力の向上や効果を得られることが期待されている。そのような読書の「効力」を周知し、読書活動につなげていくために、県として発達段階に応じた読書の目的や効果、目指すべき子どもの姿を具体的に示す必要がある。

■重点課題

③親子間・家庭内での読書活動の推進

読書の習慣化のためには、日常生活の中に読書活動を取り入れる継続的な取組が必要である。特に、子どもにとって最も身近な保護者の役割は極めて重要であり、読書活動への理解や子どもへの働きかけを行うことで、読書習慣の形成に寄与すると考えられる。

④自主的、自発的な読書活動の推進（不読率の減少）

年代が上がるにつれ読書をしない子どもが増加する傾向にあり、スマートフォンを通じた SNS や動画サイト等のコンテンツを利用する影響も大きくなると考えられる。そのような生活環境の中で、読書への抵抗を軽減させ、習慣化させるよ

うな取組の推進が求められる。

⑤読書環境の充実

家庭、学校、地域等に密着した読書支援ができる市町村立図書館等は、地域の読書活動の中核を担う施設である。また、学校図書館は児童・生徒にとって本と触れあう最も身近な場所であり、子どもの読書活動の要である。

図書館の機能を効果的に運用するためには、資料費や司書等の配置の充実は不可欠であり、読書環境の地域間格差を解消する必要がある。

⑥子どもの読書活動を支える人材の育成

図書館職員や保育者・先生、読書ボランティア等による読書支援は、子どもの読書活動を推進するうえで基幹的な役割を担うことから、読書活動に関わる様々な人材の育成や資質の向上を図り、読書環境の改善を目指す。

■社会構造の変化

⑦ICTの発達、GIGAスクール構想下での読書活動の推進

教育現場でも急速な勢いでタブレットの整備が進められており、デジタル教科書をはじめとした電子コンテンツの開発も黎明期にある。その中で、「読書活動」がどのような位置づけにあり、推進していくことが望ましいか検討する。

⑧コロナ禍による生活様式の変化に対する読書活動の在り方

新しい生活様式の中で、家庭内の読書活動の充実やイベント・研修等の開催形式の見直す必要がある。

3 読書調査の実施項目

①目的

本県の子どもたちの読書状況やその環境について実態把握を行い、今後の具体的な施策を検討するうえでの参考とする。

②調査形式

調査を実施する学校を抽出し、事前に用意したアンケート用紙へ記入する。

③調査対象

小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生 各200名程度

④調査内容

- ・「読書をする人」と「読書をしない人」とのギャップの把握
- ・読書をする理由の可視化
- ・周辺の読書環境の把握 など

⑤スケジュール

4月下旬～5月上旬：アンケートの実施

5月上旬～5月下旬：アンケートの集計

6月：分析

7月：第3回委員会にて公表